

朝晩がめっきり肌寒くなってきましたね。第3回定期テストが終わったと思ったら、怒涛のように蒼穹祭がやってきて終わりました。クラスや科ごとの仕事、部活動の発表など忙しかったみなさんもやっと一息ついているでしょうか。引き続き、お話ししたいことがあったら気軽に保健室横の「オアシス」に来てくださいね。お待ちしております。

言葉にすることの大切さ

9月の終わりごろ、3年生工業科の現代文Aの授業で今井むつみさんという人の『言葉と世界』という評論を読みました。「わたしたちは母語である日本語をとおして世界を認識しているのだ」ということを述べています。わたしたちは、世界を言葉でカテゴリー化する（くくる）ことで理解をしているのだ、ということです。確かに名詞でも、動詞でも、具体的なことをくくって抽象的な言葉でまとめて整理しています。分類、整理できるから、理解できるんですよね。



赤ちゃんは言葉を持たないので、「おなかすいたよ」「オムツ替えてよ」という不快を泣いて表現しています。赤ちゃんの「泣く」は不快や不安ですが、高校生にとっての「泣く」はもっと複雑で多様ですね。うれし泣きもありますし、お腹をかかえて笑い泣きすることもあります。他人の不幸に涙するときもあります。

先日、うちの娘（小3）は友だちにいじわるなことを言われて、何かいやなことを言われたんだけど、何がどういやなのかが言語化できずに、悲しそうにもやもやしていました。

勉強するときでも、人に説明するときにも言語化は大切ですが、もっと大切なのは自分で自分の感情を消化するときだと思います。今わたしは何が辛いんだろう、「悲しい」のか、「寂しい」のか「せつない」のか、どうしたらラクになれるのか、言葉にできれば片づけられるときがあります。語彙（ごい）を増やして表現する機会を作ることは生きていく力につながるのではないのでしょうか。ちょっと考えてみてください。

余談ですが、1年生の国語総合では芥川龍之介の『地獄変』のもとになった、『宇治拾遺物語』の中にある「絵仏師良秀」の話を読んでいます。古典に材をとるつながり！で教科書の後ろのコラムで『陰陽師』が紹介されています。夢枕獏さん（小説）と岡野玲子さん（マンガ）のどちらも面白いです。『夏目友人帳』や、妖怪が出てくる小説が好きな人は是非読んでみてください。

マンガが好きすぎる国語科望月に続いて、後半は国語の先生ではないのによっぽど風流を解している達子先生です！

望月里佳子

<相談室の担当>

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 昼休み | 小林達 | 池田 | 山口 | 遠藤正 | 佐藤富 |
| 放課後 | 苫米地 | 遠藤正 | 望月里 | 望月里 | 苫米地 |

メールアドレスは so-dan@sths.ed.jp すべて小文字

こころのゆとり

学生のころ「この勉強が何のためになるのか？」と考えたこともないぐらい私は、幼かったと思う。ただその日その日を過ごしてただけ。高校受験、大学受験、就職試験、とその時々で、乗り越えなければならない壁を、いやだなあ・・・と思いながらも周りに流され、運よくクリアできてきた。とは言え、大学受験の時には、何をどうすればよいのか、自分が分からなくなり、不安との戦いだったことを今でも思い出す。

ここ何年か、学生時代に学んだことがよみがえる。例えば、清少納言の枕草子。中学生のころ、全文暗記し、個別の口頭テストがあった。そこまでやることに何の意味があるのかと感じたこともあった。

『秋は夕暮れ。夕日の差して山の端いと近うなりたるに、鳥の寝所へ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。』



秋の夕暮れ、夕日が差して、鳥が谷津山へ帰る。三つ四つ、二つ三つなどと言うものではない。大群だ！飛び急ぎ寝床へ帰るように見えて、またどこかへ群れを成して飛び立つ姿がおもしろい。現代の鳥社会も忙しいのだ。

そんな自然の姿を背景に、グラウンドではテニス部、野球部、サッカー部、ラグビー部の生徒達が、好きなことをがむしゃらに、そして真剣なまなざしで汗を流している姿は、いとあはれである（心を打たれる）。バックネット裏からは弓道部のシルエット、体育館からはバレー部か、バスケット部なのか、ボールが弾む音とともに、光が漏れている。姿は見えないが、応援指導部の練習声、校舎の2階からは小さいながらも楽器の音色が聞こえるは、いとをかし（趣がある）。

日が入り果てて、「ヤバイ！ 子どものお迎えが・・・今日に限って自転車だ！」と現実にかえる。ガムシャラに自転車をこいでいる中、涼しい心地の良い風を感じた。そして本当に虫の鳴き声が聞こえることに思わず、笑いがこみ上げていた。

あの時は、枕草子の良さなんて全く分からなかった。しかし、数十年前に学んだことを、今こうして誰にも気づかれず、一人で楽しんでいる自分がある。日々の生活を客観的に見ながら、「いとをかし」を見つけることで、自分の喜びを再確認する。あの時の学びが、今こうして私の心を豊かにしてくれる。そのために学んできたのだと感じる。

そこに意味があるのかと言われれば、大いにある。「自分の喜びはここにある。」とみんなに教えられ、たくさんの元気をもうことができたのだから。

小林達子

スクールカウンセラーの先生の相談日 *2学期から月曜日になりました

石川 美智子先生(臨床心理士)

相談日 毎週 月曜日(月3回程度)

15:00~17:00くらい

(10月29日 11月5,12,26日)

